

0.54 mL 以下である。

水分 0.50 % 以下 (1 g, 容量滴定法, 直接滴定)。

強熱残分 0.10 % 以下 (1 g)。

定量法 本品約 0.4 g を精密に量り, 無水酢酸 70 mL に溶かし, 0.1 mol/L 過塩素酸で滴定する [指示薬: マラカイトグリーンシュウ酸塩の酢酸 (100) 溶液 (1 → 100) 3 滴]。ただし, 滴定の終点は液の青緑色が黄緑色を経て微帯緑黄色に変わるときとする。同様の方法で空試験を行い, 補正する。

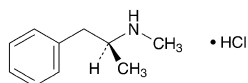
0.1 mol/L 過塩素酸 1 mL = 29.417 mg $C_{12}H_{16}ClNO_3 \cdot HCl$

貯法 容器 気密容器。

塩酸メタンフェタミン

Methamphetamine Hydrochloride

メタンフェタミン塩酸塩



$C_{10}H_{15}N \cdot HCl$: 185.69

(2*S*)-*N*-Methyl-1-phenylpropan-2-amine monohydrochloride
[51-57-0]

本品を乾燥したものは定量するとき, 塩酸メタンフェタミン ($C_{10}H_{15}N \cdot HCl$) 98.5 % 以上を含む。

性状 本品は無色の結晶又は白色の結晶性の粉末で, においはない。

本品は水, エタノール (95) 又はクロロホルムに溶けやすく, ジエチルエーテルにほとんど溶けない。

本品 1.0 g を水 10 mL に溶かした液の pH は 5.0 ~ 6.0 である。

確認試験

(1) 本品の水溶液 (1 → 100) 5 mL にヘキサクロロ白金 (IV) 酸試液 0.5 mL を加えるとき, だいたい黄色の結晶性の沈殿を生じる。

(2) 本品の水溶液 (1 → 100) 5 mL にヨウ素試液 0.5 mL を加えるとき, 褐色の沈殿を生じる。

(3) 本品の水溶液 (1 → 100) 5 mL に 2,4,6-トリニトロフェノール試液 0.5 mL を加えるとき, 黄色の結晶性の沈殿を生じる。

(4) 本品の水溶液 (1 → 20) は塩化物の定性反応を呈する。

旋光度 $[\alpha]_D^{20}$: +16 ~ +19° (乾燥後, 0.2 g, 水, 10 mL, 100 mm)。

融点 171 ~ 175 °C

純度試験

(1) 酸又はアルカリ 本品 2.0 g を新たに煮沸して冷却した水 40 mL に溶かし, メチルレッド試液 2 滴を加え, 試料溶液とする。

(i) 試料溶液 20 mL に 0.01 mol/L 硫酸 0.20 mL を加えるとき, 液の色は赤色である。

(ii) 試料溶液 20 mL に 0.02 mol/L 水酸化ナトリウ

ム液 0.20 mL を加えるとき, 液の色は黄色である。

(2) 硫酸塩 本品 0.05 g を水 40 mL に溶かし, 希塩酸 1 mL 及び塩化バリウム試液 1 mL を加え, 10 分間放置するとき, 液は変化しない。

乾燥減量 0.5 % 以下 (1 g, 105 °C, 2 時間)。

強熱残分 0.10 % 以下 (1 g)。

定量法 本品を乾燥し, その約 0.4 g を精密に量り, 無水酢酸/酢酸 (100) 混液 (7 : 3) 50 mL に溶かし, 0.1 mol/L 過塩素酸で滴定する (電位差滴定法)。同様の方法で空試験を行い, 補正する。

0.1 mol/L 過塩素酸 1 mL = 18.569 mg $C_{10}H_{15}N \cdot HCl$

貯法

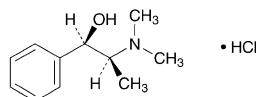
保存条件 遮光して保存する。

容器 気密容器。

dl-塩酸メチルエフェドリン

dl-Methylephedrine Hydrochloride

dl-メチルエフェドリン塩酸塩



及び鏡像異性体

$C_{11}H_{17}NO \cdot HCl$: 215.72

(1*RS*, 2*SR*)-2-Dimethylamino-1-phenylpropan-1-ol monohydrochloride [18760-80-0]

本品を乾燥したものは定量するとき, dl-塩酸メチルエフェドリン ($C_{11}H_{17}NO \cdot HCl$) 99.0 % 以上を含む。

性状 本品は無色の結晶又は白色の結晶性の粉末で, においはなく, 味は苦い。

本品は水に溶けやすく, エタノール (95) にやや溶けやすく, 酢酸 (100) に溶けにくく, 無水酢酸又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。

本品の水溶液 (1 → 20) は旋光性を示さない。

確認試験

(1) 本品の水溶液 (1 → 100) 2 mL に硫酸銅 (II) 試液 1 滴及び水酸化ナトリウム試液 2 mL を加えるとき, 液は青紫色を呈する。この液にジエチルエーテル 1 mL を加えて振り混ぜるとき, ジエチルエーテル層は赤紫色, 水層は青紫色を呈する。

(2) 本品の水溶液 (1 → 20) 1 mL に水酸化ナトリウム試液を加えてアルカリ性とした後, 過マンガン酸カリウム試液 2 ~ 3 滴を加えて加熱するとき, ベンズアルデヒドのにおいを発する。また, 発生するガスは潤した赤色リトマス紙を青変する。

(3) 本品 0.1 g を水 1 mL に溶かし, 2,4,6-トリニトロフェノール試液 10 mL を加え, 時々振り混ぜながら 2 時間放置する。生じた沈殿をろ取り, 希エタノールから再結晶し, デシケーター (減圧, シリカゲル) で 5 時間乾燥するとき, その融点は 124 ~ 128 °C である。

(4) 本品の水溶液 (1 → 10) は塩化物の定性反応を呈す